



感謝でつないだ3学期

「大中の感染状況はどうなっているのですか。教えてもらえないのですか」。

新型コロナウイルスの第6波と重なった3学期、電話での問い合わせがいくつかありました。生徒を学校に預ける以上、親御さんがその安全性を心配されるのはごもっともなことです。他方、感染や濃厚接触にかかわることはデリケートな個人情報であり、当該者の親御さんにとっても特定につながるような情報提供は心外な話となります。双方の心情を察するがゆえに、学校の回答は歯切れの悪いものとなっていたかと思います。申し訳ありませんでした。しかしながら、生徒の安心・安全確保を最優先に考え、次の3つのことを徹底してきました。①心配な症状がある場合には登校を控えてもらう、②陽性者が見つかった場合、行動履歴から濃厚接触者を明らかにし、クラスターを発生させないようにする。その際、学校医の協力を積極的に得る、③関係する生徒の保護者には連絡を取り、丁寧に説明して協力を得る。お陰様で、停滞することなく教育活動を継続することができました。保護者の皆様のご理解と支えあっての今です。本当にありがとうございます。

さて、第5ステージテーマ「感謝」を踏まえ、『ありがとう』を形にしてつなごう」と生徒に投げかけて3学期の生活をしてきました。コロナ禍前と同じような生徒どうしのかかわり方が十分にできない中ですが、大中学生の思考力・行動力は大したもの。例えば、2年学年委員会並びに生徒会執行部では、感謝会開催にあたり全校が集合するのを避け、ICTを駆使した「ありがとうリレー」や「思い出ムービー」、「飛び出す写真」などを発案して会を盛り上げるとともに、3年生へ感謝の思いを伝えました。給食委員会では、「給食では嫌いな物も食べることができました」などのメッセージを全校から集め、寄せ書きにして給食センター職員の皆さんにプレゼント。保健委員会では、大仁小・大仁北小の保健委員に合同保健会のお礼のビデオメッセージを制作。また、感染症対策として、放課後に学校施設の消毒を行ってくれたスクールサポートスタッフの尾川さんにメッセージを送りました。さらに、美化委員会と生活委員会が連携し、清掃活動の充実を図る取組を通して校舎への感謝の気持ちを実践化。このほか、学級単位でもお世話になった教職員に感謝の気持ちを表す取組が散見されました。

生徒は、自分の学校生活を陰ひなたから支えてくれた人たちに思いを馳せ、ありがとうの気持ちを見える形にして伝えました。言われてやるのではなく、「自分で考え、判断・決定」して行動したところに意義があります。次につながる学びができたと確信できる発言が、感謝会の中で前期生徒会長からありました。

「大中は新しいことに挑戦しています。大中学生であることを後悔する人はいないと思います」。

<文責：校長>

☆感謝会 ～3年生ありがとう！これからも応援しています～

一年間、学校のリーダーとして活躍してきた3年生に、感謝の気持ちを贈りました。体育館に一齐に全校生徒が集まらなくても、下級生の思いがしっかり伝わるよう、内容を工夫して行いました。気持ちを受け取った3年生のうれしそうな表情、気持ちを伝えようと一生懸命企画し、表現した1, 2年生の姿が、今年度のあたたかい会になりました。



企画、進行をがんばりました



1年生から「ありがとう！」



縦割りの仲間からの



3年生からもすてきなプレゼント
(カード・メッセージ)をもらいました



あたたかい、
すてきな会になりました

メッセージカード



一人一人に向けて、
心を込めて作られたカードに感激…



感謝の気持ちをしっかり受けとめ、
これからもがんばります！

☆校内に「ありがとう」があふれました



3年生から1,2年生へ
「消毒スタンド」のプレゼント
足で踏むタイプの優れものです



保護者の皆様

一年間、学校の教育活動にご理解、ご協力をいただき、本当にありがとうございました。来年度も引き続きよろしくお願いいたします。